



生物多様性センター Biodiversity Center of Japan

創刊号

2000. 8. 19

ニュースレター

CONTENTS

創刊号です。よろしく！	1
生物多様性センターのシンボルマーク、マスコットキャラクターを決定	2
生物多様性情報システム（J-I B I S）を更新	3
「身近な生きもの調査2000 身近な林」が今年の秋から始まります	4
センターの動き、人の動き、利用案内	5
夏だ！祭りだ！生物多様性まつり	6

創刊号です。よろしく！



大変お待たせいたしました。生物多様性センター・ニュースレターの創刊号を皆様にお届けできることになりました。

生物多様性センターが、環境庁自然保護局の出先機関として、こ

の山梨県富士吉田市にオープンしてから早2年に

生物多様性センター長 笹岡 達男

なります。このセンターでは、主に次の4つの分野から仕事を進めています。

「調査」の分野では、環境庁発足（1971年）後の1973（昭和48）年より続けられてきた自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）の業務全般を引き継ぎました。1999（平成11）年度からは、第6回自然環境保全基礎調査が始まり、日本全国の新しい植生図（縮尺2万5千分の1）づくりなどが進行中です。

「情報」の分野では、IT革命の先鞭をつける



気持ちで、センター発足と同時に「生物多様性情報システム(J-IBIS)」を立ち上げ、Webを通じて調査の成果を発信しています。昨年からは「英語版」がスタートし、世界からのアクセスも増えてきました。また、調査成果のより詳細な解析・活用を図るために、「自然環境情報GIS」の整備を進めています。

「標本資料」の分野では、トキやシマフクロウ、イリオモテヤマネコなど絶滅危惧種の剥製標本を保管するとともに、我が国の野生生物に関する標本の整備・管理システムを検討中です。文献資料については、専門図書の収集に加え、全国の自然系の調査研究機関・博物館、自然環境保全活動を行う機関・団体等から寄贈された資料を保管・整理し、閲覧できるようにしています。

「普及啓発」の分野では、展示室や図書資料閲覧室の一般公開に加えて、近隣の環境学習施設と

の連携や、Webなどを通じたネットワークにより広く環境学習の素材を提供して行く考えです。

センターの仕事の根幹をなす自然環境保全基礎調査は、従来より全国の多数の専門家、自治体、民間機関、市民等の方々の参加・協力によるパワーを結集して実施され、情報が蓄積されてきました。自然環境や生物多様性に関する様々な課題に対処していくために、こうした課題に関心を持ちそれぞれの立場から具体的に取り組んでいる方々のネットワークを今後なお一層強めて行くことが重要と痛感する次第です。

このニューズレターの発行を軌道にのせ、多くの皆様との絆を深めるメディアとして育てていきたいと考えております。当センターのホームページ(<http://www.biodic.go.jp/>)ともどもよろしくご最頁にお願い申し上げます。

生物多様性センターの

シンボルマーク、マスコットキャラクターを決定



シンボルマーク

生物の系統樹と植物をモチーフとし、生物が地球から誕生し、多様化するさま及びセンターの発展性を表現



マスコットキャラクター「ズックちゃん」

生物多様性センターにより親しみをもってもらいたくため、シンボルマーク、マスコットキャラクターを決定しました。

ホームページ、パンフレットなどさまざまな場面で使用していきますので よろしくお願いたします。

より使いやすくなりました

生物多様性情報システム (J-IBIS) を更新

環境庁生物多様性センター（山梨県富士吉田市）では、自然環境保全基礎調査の成果を中心とする生物多様性に関する情報を収集・管理・提供するためのシステムとして「生物多様性情報システム」(J-IBIS: Japan Integrated Biodiversity Information System)の構築を進めています。98年6月センターの開所に伴い、J-IBISのWebページを開設し、情報の一般への提供を行っています。

URL <http://www.biodic.go.jp/J-IBIS/>



全文検索対応版トップページ

これらの中で中心となる基礎調査のメニューでは、調査方法や調査成果の概要のほか、第4回調査までについて以下の分布図を一般に公開しています。

- ・ 植生自然度図（県別、3次メッシュデータ）
- ・ 特定植物群落分布図（県別、秘区分を除く）
- ・ 巨樹・巨木林分布図（県別）
- ・ 動植物分布図（全国2次メッシュ、保全の観点から一部データを除く）
- ・ 湿地分布図（県別）
- ・ 藻場・干潟分布図（県別）

なお、巨樹巨木林分布図、湿地分布図、藻場・干潟分布図分布図の表示には、インターネット対応のGIS（地理情報システム）を導入しており、拡大・縮小、属性表示等の機能を付加しています。閲覧には最新のブラウザソフトのご利用をおすすめします。

ところでこのたび、このJ-IBISのシステム更新を行い、グラフィカルな部分を充実する事により、これまでデータの所在が分かりにくいといった問題点を解消するとともに、身近な生きもの調査等、データの追加を行いました。

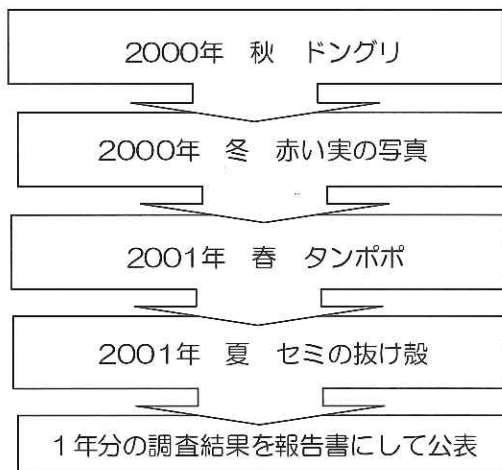
今後とも、国、地方自治体、研究者において自然環境の保全・生物多様性の保全を推進するための基礎データとして勝つようされることが望まれます。

「身近な生きもの調査2000 身近な林」 が今年の秋からはじまります。

身近な 生きもの 調査



テーマは「身近な林」



調査の流れ

「身近な生きもの調査」は、多くの自然愛好家の参加者を募集して、「環境指標生物」となる身近な動植物の分布や生態を調べ、身近な自然を診断しようとするものです。

今回のテーマは「身近な林」です。

「身近な林調査」は、ビルに囲まれた街(まち)の林、田畑に囲まれた林、神社の林、公園の林などのみなさんのまわりにある「身近な林」で、四季を通して同一場所で調査を行うものです。調査の対象となるものは、秋は「ドングリ」、冬は「赤い実」の写真、春は「タンポポ」、夏は「セミの抜け殻」です。参加者の皆さんから調査の結果である、実物や写真などを送付してもらい、専門家による同定・解析を経て、全国各地の「身近な林」の環境診断を行い、生きものから見た環境の健全度の診断、環境の保全や改善のための基礎的資料を得ることを目指しています。

調査結果等は報告書にとりまとめ参加者に配布します。また、調査に関する情報は、生物多様性センターwebページにも掲載し、公開する予定ですので、是非アクセスして下さい。

URL <http://www.biodic.go.jp/> e-mail mijika@biodic.go.jp/

身近な生きもの調査について

「身近な生きもの調査」は、居住地周辺の(身近な)自然環境の動向を表している種(環境指標種)について、その分布や生態等を調べ、国土の身近な自然環境を診断するとともに、調査を通じて国民の身近な自然への関心を高め、その保全の必要性について理解を深めていくことに役立つ目的で実施しています。

第3回自然環境保全基礎調査(緑の国勢調査)の一環として昭和59年度に初めて実施して以来、第4回(平成2年度)、第5回自然環境保全基礎調査(平成7・8・9年度)でも実施され、今回が4期目になります。これまでの調査では、一般ボランティア(延べ30万名余り)の参加を得て、数少ない専門研究者だけでは困難な、いわゆる普通種や広域分布種の分布状況等が全国一律・一斉の調査によって把握されました。

	緑の国勢調査	調査年度	参加者数	対象種
第1回目	第3回	昭和59年度	10万人	動植物種 70種
第2回目	第4回	平成2年度	12万3千人	動植物種 48種
第3回目	第5回	平成7年度	3万6千人	セミ類 28種
		平成8年度	3万1千人	ひつつきむし 18種
		平成9年度	3万1千人	ツバメ類 5種
第4回目	第6回	平成12年度		身近な林

過去3回にわたる「身近な生きもの調査」は、動植物種に着目した調査でしたが、今回の調査のように「身近な林」という場所に注目して、四季を通じて同じ場所で調査を行う試みは初めてです。

センターの動き 2000年4月～8月

- 5月10日 **身近な生きもの調査 募集開始**
- 15～26日 生物多様性条約第5回締約国会議開催 (於：ケニア・ナイロビ)
- 6月2～4日 巨樹計測講習会 (於：奥多摩町)
- 7月4日 自然環境保全基礎調査 植生分科会及び植生作業部会
(於：環境庁別館804会議室)
- 10日 自然環境情報GIS第2版CD-ROM配布開始
- 19日 自然環境保全基礎調査 植生調査植生原図作成業務 業務説明会
(於：生物多様性センター)
- 19日 **生物多様性情報システム(J-IBIS)更新**
- 26日 自然環境保全基礎調査植生調査植生原図作成業務入札 (於：生物多様性センター)
- 8月1日 自然環境保全基礎調査 生態系総合モニタリング分科会
(於：東京・私学会館)
- 19～20日 **生物多様性まつり「ワクワクドキドキ生きもの世界」開催**
- 31日 **身近な生きもの調査 募集締切**

人の動き 平成12年4月

- 〈転出〉 情報システム科長 大塚 孝治 (建設省国土地理院測図部地形課へ)
- 管理科 主査 佐々木辰男 (東北北海道地区自然保護事務所へ)
- 生物多様性専門員 雨宮 龍太 (山梨県韮崎林務事務所へ)

- 〈転入〉 情報システム科長 阿久津 修 (建設省国土地理院測図部写真測量技術開発室から)
- 管理科 主査 五十嵐 毅 (富士箱根伊豆国立公園沼津管理官事務所から)
- 調査科 馬淵 亮 (自然保護局野生生物課から)
- 自然保護専門員 堀内 直 (山梨県大月林務事務所から)

生物多様性センター利用案内

展示室

開館時間：9:00～17:00

休館日：【5月～10月】祝日 (ただし、土、日曜日と重なる場合は開館)

【11月～4月】土、日曜日、祝日

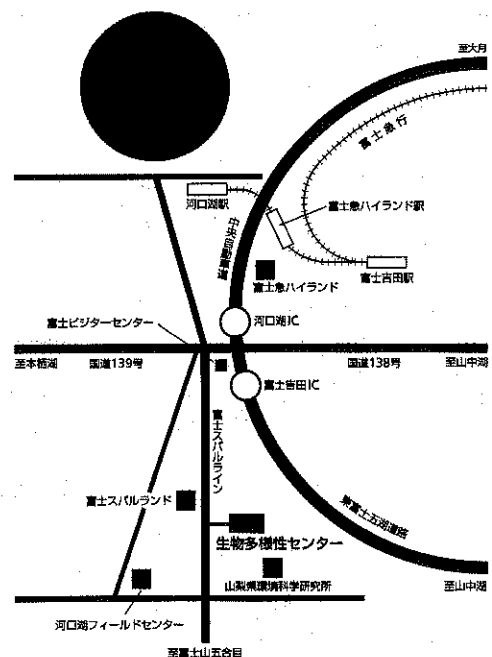
12月28日～1月4日

入館料：無料

図書資料閲覧室

開館時間：9:00～17:00 (図書の貸出は行っておりません)

休館日：土、日曜日、祝日、12月28日～1月4日



夏だ！ 祭りだ！ 生物多様性まつり！

ワクワク ドキドキ 生きものの世界 2000. 8. 19 (土) ~ 20 (日)


当センターでは、この夏に、生物多様性まつり「ワクワク ドキドキ 生きものの世界」を開催します。このイベントは、より多くの人に生きものの世界のすばらしさを知ってもらうことを目的として実施されます。

生物多様性まつり

ワクワク ドキドキ 生きものの世界

スライドショー
「ほくらはみんな生きている
～日本の生きものをち～」
動物写真家・CATV富士五湖
「動物なんでも相談コーナー」
キャスターの **中川雄三**さんが
スライドをまじえながら、楽しい生き
もののお話をしてくれるよ！
8/20 14:00～15:30
入場無料、申込制

生物多様性センターオープン2周年
を記念してイベントをやるよ！
生きもののお話さがる
企画がいっぱい！



生物多様性センター
イメージキャラクター
ズツちゃん

場所は富士スバルライン沿い
富士スバルランドの向かいだよ

企画内容	日程	8月19日		8月20日	
		土	日	日	日
写真展示 いろいろな生物の写真がみられます。	7/25～8/20	10:00～	～17:00	10:00～	～17:00
剥製特別展示 普段は特別収蔵庫にあるトキなどの剥製がみられます。	7/25～7/27, 8/6	10:00～	～17:00	10:00～	～17:00
自然観察会 センター周辺の林の中を散策します。申込制。		11:00～12:00			
映画上映会 「グース」を上映します。入場無料、予約なし。			13:30～15:30		
ゲーム大会 鳴き声や写真から動物や植物の名前を当てよう！		11:00～12:00		11:00～12:00	
スライドショー 動物写真家 中川雄三さんのスライドショー。申込制。					14:00～15:30
昆虫・植物標本作成講習会 昆虫と植物の標本を作ろう！申込制。			13:00～16:00		

講演会・自然観察会の申し込み・イベント問い合わせ先 環境庁 生物多様性センター
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1 電話 0555-72-6033
URL : <http://www.biodic.go.jp/> E-mail : event@biodic.go.jp

イベントの内容は、

- ①動物写真家 中川雄三さんのスライドショー、
- ②昆虫標本・植物標本作成講習会、
- ③自然観察会、
- ④映画上映会
(上映作品：「グース」)
- ⑤トキなどの剥製特別展示、
- ⑥貴重な生物の写真特別展示、
- ⑦ゲーム大会
(生きもののお名前当てゲーム)

と盛り沢山の内容です。一人でも多くの人に楽しんでいただき、尚且つ生物多様性について興味をもつ若しくは認識を深めていただければ幸いです。

生物多様性まつりは、来て頂いた方に、きっと何かを掴んで帰っていただけるイベントだと思いますので、当日イベント会場までは是非お越し下さいますようお願い申し上げます。

編集後記：生物多様性センターニュースレター創刊号をお届けします。生物多様性センターではいま何をしているのか、できるだけわかりやすくみなさまにお伝えできれば、と思います。年4回発行する予定です。今後ともよろしくお願ひいたします。(ま)

発行：環境庁自然保護局生物多様性センター
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1
電話：0555-72-6031 FAX：0555-72-6035
URL <http://www.biodic.go.jp/>
e-mail [newsman@biodic.go.jp/](mailto:newsman@biodic.go.jp)

このニュースレターは再生紙を使用しています。